

第13回

統語法

～代表的な統語法の歴史～

(1)

IV 関係代名詞の発達

古英語の関係代名詞って・・・？

古英語には **3種類** の関係代名詞があった



① pe : 不変化詞

② sē pe, sēo pe, pæt pe
: 指示代名詞 + 不変化詞

③ sē, sēo, pæt : 指示代名詞

ちょっとその前に・・・

指示代名詞とは

事物・場所・方角などを指し示すときに用いる代名詞

this, that, these, thoseなど



不変化詞とは

主語や時制や指すものに応じて変化しない単語
前置詞や接続詞など

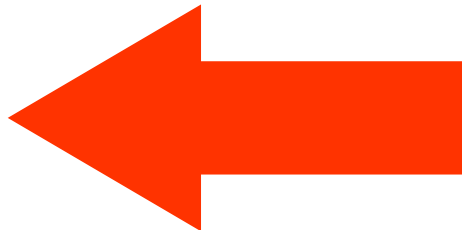
be



先行詞の性・数、格を示すための変化をしない

古英語の関係代名詞 その後

① pe



peだけが現代英語の
関係代名詞thatへと
発達して生き残った。
他は疑問詞から発達。

② sē pe, sēo pe, pæt pe

③ sē, sēo, pæt

初期近代英語期のthat

that

最も一般的な関係代名詞

しかし！

wh-関係代名詞(what, which, who, whose, whom)の使用拡大



それと同時に、that, which, who
の用法が分化していった

that, which, who機能・用法の確立

whoとwhich

先行詞が

生物

無生物

who

which

thatとwhich

先行詞が

最上級に修飾
されている

that

節

which

用法が

制限用法

that

非制限用法

which

確認問題



that (古英語期pe)の機能・用法は古英語から近代英語初期までどのように変化したでしょう

確認問題



古英語期には不変化詞（主語や時制によって形が変わらない品詞）としての関係代名詞だったが、初期英語には最も一般的な関係代名詞になった。それと同時にwh-関係代名詞が使用を拡大し、thatはwhichと、用法や機能を分け合うようになった。